



学校だより



墨田区立第三吾嬬小学校

校長 川中子登志雄

令和5年9月1日

9月号

何のための「主体性の育成」か

校長 川中子登志雄

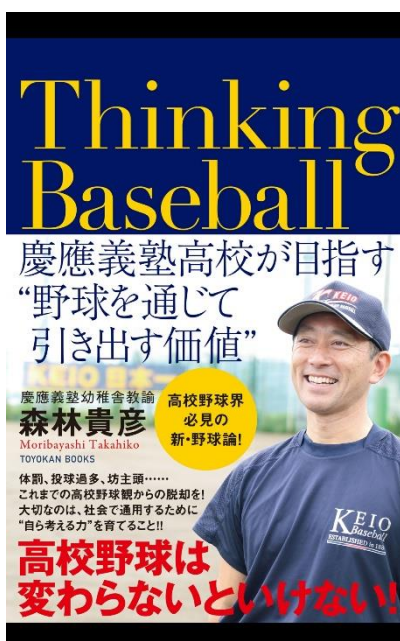
長い夏休みが終わりました。相変わらず猛暑日が続いておりますが、保護者や地域の皆様はお変わりございませんでしょうか。子どもたちも楽しみにしていた夏休みプール教室は、熱中症対策を考慮して、7月を少なく8月を多めに計画しておりましたが、猛暑のため半分近くは中止せざるを得ませんでした。気候変動は、年々厳しさを増している感があり、もはや、これまでとはまったく異なる、抜本的な対策が必要であると感じています。

さて、私はあまりスポーツが得意ではなく（嫌いなわけではありませんが）、スポーツの話題には関心も高くない方です。それでも、今夏の高校野球はとても興味深く観戦しておりました。というのも、甲子園が開幕した直後でしたでしょうか。普段、学校を応援してくださっている方から、ネット上に興味深い記事が出ていますよと教えていただいたことから、神奈川代表になった慶応高校のことを知ったことがきっかけでした。（その記事を読んだときは、慶応高校が甲子園に出場していることさえ知りませんでした。）『Number Web』というサイトに掲載されていたのは、『「髪の毛を切ってから、出直してこい」というヤジも…今夏甲子園の“非坊主”校、慶応高監督が明かす“高校野球の嫌いなところ”「皆、甲子園中毒になっている」』という記事でした。これは、慶応高校監督・森林貴彦氏の著書「Thinking Baseball-慶應義塾高校が目指す“野球を通じて引き出す価値”」からの抜粋（3回分の3回目）でした。すると、同じような記事が様々なサイトにも掲載され、特にベスト8が決まった頃には、「坊主頭ではない学校が3校！」などと、これまでの高校野球の常識(?)を打ち破った学校の活躍が取り上げられていました。私も、前述の記事などを見ながら、選手が主体的に取り組んでいる学校の様子を楽しみに見ておりました。

慶応高校はどんどん勝ち進んだのですが、ある時、それまでのそれぞれの選手の成績を見たところ、対戦相手はホームランを何本も打って勝ち進んでいたのに、慶応高校はその時点でまだ一本も打っていませんでした。つまり、ホームランを量産できるような「甲子園のスーパースター」が集まった学校ではなかったということです。しかし、ご存じの通り、慶応高校は107年ぶりに甲子園での優勝をつかんだのです。

私は慶応高校の優勝の知らせを聞いた後、すぐに森林監督の著書を手に入れて読んでみました。その中から印象的だったところを、少しご紹介させていただきます。

「私が指導するにあたって、**もっとも心がけているのは、選手の主体性を伸ばすことです。**プロとして野球を続けられる選手はごくわずかですし、仮にプロ野球選手になれても、いつかは現役を引退しなければならず、監督や評論家になれるのはほんのひと握り。つまり野球から離れたときにきちんと勝負できる人間になっていることが大事なのです。（中略）社会で活躍できる人の共通



点として挙げられるのは、自分を客観視できること。自分なりのアイデアを持ち、自分自身の強みを知っていて、それを伸ばす努力ができる人は、社会に出てどんな仕事に就こうとも通用します。さらに付け加えれば、自分で自分の幸せを理解していることも大事です。これからの社会は多様性が重視され、人それぞれ追求する幸せが違う時代になっていきます。お金、家庭、仕事のやりがい、……。多様な価値観の中で、何が自分を幸福にさせるかを分かっていないと、本当の幸せはつかめません。」(前述書「第2章 高校野球の役割を問い直す」より)

そのほか、著書の随所に、森林監督が大切にしていることが書かれていて、大変感銘を受けました。ちなみに、森林監督は慶応幼稚園舎(=小学校)の担任の先生でもあり、ご自身の基本的な姿勢についてこのように書かれています。

「慶應義塾全体で目指す人物育成の大きなテーマが「独立自尊」。簡単に言えば、個人個人が自分で判断して、考えて、行動するということです。高校生への野球指導で根幹になっているのと同じように、小学生であってもその年齢なりに考えて行動してほしいと思っています。(中略)こうした哲学は慶應義塾全体で脈々と受け継がれてきたものであり、私もその流れをくみ取った上で、小学生と高校生の指導にあたっています。」(前述書「第2章 選手は自ら育つという信念」より)

私は、この夏、第三吾孺小学校の改革を推進するために、様々な研修会に参加し、いくつもの書籍にもあたり勉強しながら考えてみました。慶応高校の活躍にも後押しされながら、今、三吾小が進む方向性は間違っていないと確信いたしました。そして、改革のテーマである「**児童の主体性の育成**」は、これから先、**予測不能な変化の激しい社会を生きる子どもたちが、自らの力で幸福な人生を切り拓いていくことができるようにさせるためだ**ということを再確認しました。

第三吾孺小学校では、現在、『児童の主体性の育成』を主題に「学力向上」「特別活動」「リーダー・イン・ミー」の三つの切り口でこの改革に取り組んでいます。今後、さらに研究を深め、9月からの教育活動で新たなことに挑戦していきます。(研究の進捗状況等については、本校ホームページの「第三吾孺小学校の研究」<https://www.sumida.ed.jp/sanazumasho/shokai/R5kenkyu.html>でお伝えしておりますので、ご覧ください。)



学校改革新着情報!

【改革①】評価改革 通知表の見直し

子どもたちの「良さ」を伸ばし、自己肯定感を高めるために評価方法の見直しを進めています。今年度は通知表の見直しを進めています。

【改革②】体育学習発表会の見直し

人と比べるのではなく、一人一人が「自己ベスト」に挑戦する、新しい「運動会」を目指しています。

《9月の校長「語らいサロン」》

テーマ「中学校への進学について」

日時 9月30日(土)9:00-9:50

場所 本校図書室(3F)

今年も、特別ゲストコメンテーターとして、墨田区立中学校長会長・吾孺第二中学校長の駒田のみ子先生をお招きして行います。ぜひご参加ください。

〈行事の様子〉

委員会活動の様子

4月から4ヶ月間、5・6年生の子供たちは、委員会活動を頑張ってきました。どの委員会も、学校生活を豊かにするために常時活動や、月によっては楽しい企画を考えて、子供たち自身が計画、運営をしています。今年度は学校として「児童の主体性の育成」を掲げ、様々な教育活動の中で「主体性とは何か」、「児童が自ら課題を見だし、解決するためには何をすべきか」を模索しています。委員会活動はその絶好の場になると考えて、子供たちとともに手探りながらも取り組んでいます。もちろんはじめから何でも児童が主として進めていくことは難しく、失敗も多くありましたが、後期の活動も、委員会活動がそのためのよい学びの機会になるよう、指導していきたいと思えます。



〈お知らせ〉

キャリア教育特別授業の講師が決まりました！



10月14日(土)2校時、今年で6回目となるキャリア教育特別授業を実施します。5・6年生の総合的な学習の時間に、様々な職業の方をゲストティーチャーとしてお招きし、子供たちに仕事についてのお話や、社会人としての心構えなどについてお話をいただき予定になっております。お時間がありましたら、保護者の皆様もぜひご覧ください。

ついに各教室に大型テレビが！

テレビが大きくなり、とても見やすくなりました。写真や資料もとても鮮明にうつります。子どもたちの学びに役立つことを期待しています。
※とても大きいので、ぶつかって怪我をしないか、心配しています。学校でも安全について伝えていますが、家庭でもお話いただくと幸いです。

